

## 第112回交流フロア運営会議（議事概要）

### 1 日時・場所

日時：2021年8月4日（水）18:30～20:00

場所：伊丹市立図書館ことば蔵 1階交流フロア

### 2 参加者数 16名

### 3 会議内容

#### <新規提案>

#### （1）キッズ・サバイバー講座（洪水編）

##### 【概要】

- ・雨が降る仕組みや、減災の知識・応急手当などを学ぶキッズ・サバイバー講座を開催したい。
- ・対象は親子9組とし、家族で学んでもらう形にしたい。

##### 【意見】

- ・親子で実施することのメリットやデメリットがあれば教えてほしい
- メリットは、参加した子どもがリラックスして参加できたこと。デメリットは、場が盛りあがり  
がちなので、きちんとメリハリをつけることが重要だと感じている。

#### （2）朗読と歌の楽しみ

##### 【概要】

- ・子どもからご高齢の方まで楽しめる朗読をことば蔵でやってみたい。
- ・朗読は宮沢賢治、高村光太郎、小津安二郎などを考えている。歌はこれから選びたい。
- ・開催時期はコロナの状況を見ながらだが、年度内にできればと思っている。

##### 【意見】

- ・歌と朗読は別々なのか。伴奏から繋げて合わせたら一体感があって楽しそう。
- ・朗読にテーマがあれば、統一感があって分かりやすいのではないか。
- ・子どもから大人までが対象になっているが、どちらかに絞ってもよいのではないか。
- ・図書館で所蔵している本で、朗読しやすい本などを紹介してほしい。
- ・イベントを通して、小学生などにも、読む力（朗読する力）をつけてほしい。
- ・参加者にも朗読してもらおう機会があればよいのではないか。

#### （3）巨人生ゲームを作って遊ぼう（園田学園女子大学企画）

##### 【概要】

- ・人生ゲームのマス大きな画用紙で作り、自分がコマになって遊ぶイベントを開催したい。
- ・全体で20マス、うち8マスがイベントマスであり、参加した子どもたちと作る予定。

(2021年7月に発案し、参加者からの意見を元に内容を修正したものを報告)

**【意見】**

- ・マスの数が20に対して、参加する子どもが7名だと、すぐ終わってしまわないか。  
→作り方を説明し、作成してから実際に遊ぶので、リハーサルを通して時間配分を検討
- ・時間があるなら、イベントマスの内容を変更して2回やってみても学びにつながるのでは。
- ・いきなり「イベントマスを作ろう」と子どもたちに言っても書けない。学生が例を作って導いてあげることが大事。
- ・人生ゲームなので、ストーリー仕立てにしておいたら面白いと思う。
- ・作成してから遊ぶまで時間が空いてしまうと、飽きてしまうので工夫が必要。
- ・人数が定員まで揃わない、イベントマスを複数作りたい子がいる…など、色々なケースを想定しておいてほしい。

(4) キャリアブラッシュアップ講座

**【概要】**

- ・ワークや参加者同士の意見交換を中心とした、キャリア開発ワークショップを開催したい。
- ・人生100年時代、自分のキャリアを振り返り、軸を明確にし、今後の成長イメージを描けば主体的な成長やキャリア実現につながる。
- ・ビジネスパーソンを対象に、曜日固定で2週間おきなど、何回かに分けて行いたい。
- ・内容が繋がっているため、単発での参加は難しく、通しでの参加を希望。

**【意見】**

- ・具体的にはどんな内容なのか  
→ライフラインチャートなどを使って、人生や価値観を振り返る。
- ・例えば女性で、休職期間があるような人でも対象となるか  
→育児や家事の経験は活かしたく、そういった方にも積極的に参加してほしい。
- ・会場またはオンラインで開催とあるが、理想の参加人数はあるか  
→会場ならば5名程度が理想。オンラインなら人数が多少増えてもグループ分けなどが行いやすく、人数は増やせると思う。ただしハイブリッドは難しく、やってみないと分からない。
- ・時間帯はいつを考えているか。ビジネスパーソンは平日忙しい人が多く、子どもが小さい人だとこれからは土日に学校行事もある。通しで参加してもらうには日程も重要ではないか。
- ・録画で対応することはできるのか  
→できない訳ではない。しかしながら図書館ことば蔵の「交流フロア」で実施するのに録画はなんとなくそぐわないし、面白みに欠けるとも感じている。

## <イベント実施報告>

### (1) ことば蔵で風流を

半年に1度のペースで開催している邦楽演奏イベント。タイトルは、宮城道雄さんが「伊丹風流」という曲を作曲したことにちなんでいる。参加者は20名。  
運営会議の中で「季節の曲や元気が出る曲があったらいいのではないか」という意見があったので「花影」や「若人の歎び」などの曲を追加し、プログラムを工夫した。  
宝塚歌劇でおなじみ「すみれの花咲く頃」の作詞家・白井鐵三さんが伊丹に住んでいたことにちなんだ講演や、同曲の合唱も披露してもらった。

### (2) いたみ文芸ことそうし

参加者は3名。奇数月の第二土曜日に開催しているが、緊急事態宣言によるイベント中止などの影響で、1月以来約半年ぶりの開催となった。  
1人の参加者が、これまでとは違うテイストの文章を持ってきたので驚いた。

### (3) 気になる本で話そう

「在宅ひとり死のススメ」という本を中心に、参加者16名+企画者で自由に話し合った。  
高齢者社会の中で、どのように最期を迎えるのかに興味を持っている人が多いのだと感じた。  
人とのつながりを持つこと。「おせっかい」のような、自ら人と関わっていくことが大切なのだという意見が印象的だった。

### (4) 詩と想いを絵本にしよう！

当日欠席もあり、参加者は5名だった。  
絵本を作るにあたって、どうやって文章を書いたらいいのか最初の一步を踏み出せない参加者が多かったが、きっかけを与えるとみんな書き始めることができていた。  
図書館らしいイベントだと思うので、また今後も企画したい。

### (5) 漫画を語ろう！

今回のテーマは「アニメ化・ドラマ化された漫画」。参加者は3名で、なぜか最後は少女漫画の話題になり盛りあがった。  
次回は8月25日(水)18:30から、テーマは「パロディ漫画」で開催。

※運営会議に参加できなかった企画者のイベント実施報告については割愛しています。

4 次回の運営会議 **2021年9月1日(水)18:30**～図書館ことば蔵1階 交流フロア